

令和3年12月20日
世田谷保健所健康推進課

3歳児健康診査での多角的屈折検査の導入について

1 主旨

子どもの弱視の早期発見・早期治療につなげるスポットビジョンスクリーナー（以下「SVS」）を用いた多角的屈折検査を、3歳児健診において導入する。

2 期待される効果

区における平成30年度の弱視発見率は0.5%であったが、先行して導入している自治体では、弱視発見率が上昇しており、弱視の早期発見が期待できる。

弱視の多くは、3歳までに発見できれば予後が良好で、矯正眼鏡の常用と健眼遮閉治療等によって就学までに治癒する可能性が高くなっている。

3 多角的屈折検査の実施に必要な事項

- (1) SVS機器の導入（リースを想定）
- (2) 検査従事者（看護師等）の確保
- (3) 医師会との調整
- (4) 従事関係者への説明会、実施マニュアルの作成

4 概算経費（予定）

(1) 令和4年度

16,529千円

・主な内訳

SVS本体（各支所2台）・プリンターのリース、報償費、委託料、
母子保健システム改修 ※一部は国の導入補助を活用予定。

(2) 令和3年度

令和4年4月からの3歳児健診時に向けての準備のため、医師会との具体的な調整を行うとともに、事前に機器の操作確認や説明会を実施するため、令和4年3月にリース契約を締結する。

599千円

・主な内訳

賃借料、報償費、委託料

5 区民への周知

区民に対して、保護者への個別通知をはじめ、区ホームページ、区のおしらせ、子育て応援アプリ、区公式 Twitter 等にて周知を行う。

6 今後のスケジュール（予定）

令和4年3月 機器の導入、操作確認・説明会等の実施

4月～ 3歳児健診でのSVS検査開始

区のおしらせ等による周知

【参考】

1. SVS 機器本体



- SVS 機器本体の大きさは、一眼レフカメラより一回り大きい程度である。
- 実際の健診では、被検児に20秒程度目を開いてもらい、その間に看護師が機器を被検児に向けて測定する。

2. SVS 測定画面



- SVSは、網膜に光を当て、反射してくる光を測定することで眼の屈折力を測定する。
- あわせて、瞳孔の大きさや瞳孔間距離、眼位異常(眼位ずれ)も測定することにより、弱視の可能性を探知する。